

平成30年度研究者育成支援（CGFプログラム）事業実績一覧

1. ラオス

PS: Ms. Phetlasy Souladeth (Herbarium Curator and Lecturer, National University of Laos)

PC: 田金秀一郎（鹿児島大学総合研究博物館特任助教）

研究題名：Floristic inventory and plant diversity assessment of Bolaven Plateau, southern Laos 「ラオス南部ボーラヴェン高原の植物相インベントリ及び多様性評価」

研究概要：ラオス南部のボーラヴェン高原で雨季と乾季に現地調査を実施し、同高原の植物種の情報を更新し、標本提供やピクチャーガイドの作成をとおして同高原の植生への研究者等の理解を深め、保全の優先度の決定に貢献する。

2. マレーシア

PS: Ms. Faiznur Ain Binti Ahmad Bakri (Doctor Course student, Universit Tun Hussein Onn (UTHM))

PC: 安田雅俊（森林総合研究所九州支社森林動物研究グループ長）

研究題名：Factors affecting distribution and behavior of wild mammals in Gunung Ledang, southern Peninsular Malaysia 「半島マレーシア南部グヌン・レダンにおける野生哺乳類の分布及び行動に対する影響要因」

研究概要：カメラトラップを用いてグヌン・レダン国立公園に生息する野生哺乳類相、種分布、生態について情報収集を行い、種数や個体数を明らかにし、望ましい野生動物管理計画を提案する。

3. ベトナム

PS: Dr. Tao Thien Nguyen (Head of Department of Nature Conservation, Vietnam Academy of Science and Technology (VAST))

PC: 本川雅治（京都大学総合博物館教授）

研究題名：A region of high species richness: Herpetofauna diversity on the mountainous border of Vietnam and China 「生物種数の豊富な地域：ベトナム - 中国山岳国境地帯における両生爬虫類の多様性」

研究概要：標高差が大きい山岳地帯の様々なタイプの森林で現地調査を行い、DNA シーケンス解析を用いて当該地域の両生爬虫類の多様性を評価し、保全手法を提案する。

4. ベトナム

PS: Dr Ninh Nguyet Hai Le (Vice Dean, Faculty of Agriculture and Forestry, Hoa Lu University)

PC: 植松千代美（大阪市立大学大学院理学研究科准教授）

研究題名：Reveal the status of some species of the genus *Camellia* (Theaceae) already/almost extinct from the nature in North area of Vietnam 「ベトナム北部地域で野生絶滅あるいは絶滅が危惧されるツバキ属の種の状況」

研究概要：野生絶滅あるいは絶滅が危惧されるツバキ属の何種かは公園や愛好家の下で生育している。このような種に注目し、植物の季節変化の観測、遺伝子解析等により種の多様性や環境への適応性を明らかにし、保全戦略の検討に必要な情報を提供する。

平成 30 年度研究助成事業実績一覧

調査研究助成 12 件 総助成額 5,878 千円

| 出身国 | 研究者名 | 所属先 | 研究課題 (英文・仮和訳) | 助成期間 | 助成額(円) |
|--------|-----------------------------|---|---|-------|---------|
| インドネシア | Rika RAFFIUDIN | Bogor Agricultural University, Dramaga Campus | Distribution and molecular approach of the Sulawesi endemic honey bee species <i>Apis nigrocincta</i> スラウェシ固有のミツバチ <i>Apis nigrocincta</i> の分布と遺伝子解析 | 13 か月 | 497,000 |
| インドネシア | Ajeng Arum SARI | Indonesian Institute of Sciences | The study of Basidiomycota and Glomeromycota biodiversity in Baturraden Botanical Garden, Indonesia インドネシアの Baturraden 植物園における担子菌とグロムス菌の多様性 | 12 か月 | 453,000 |
| インドネシア | Agus SUYANTO | Institut Teknologi Yogyakarta | Strategy of flora biodiversity conservation at Doline Lake, case study of Nangsri Doline Lake - Gunung Sewu Geopark ドリーネ湖にみられる植物の多様性保全戦略 - グヌン・セウ・ジオパークの Nangsri ドリーネ湖を研究事例として | 12 か月 | 499,000 |
| スリランカ | DMS Suranjan KARUNARATHNA | Nature Explorations and Education Team | Natural history and distribution of Sri Lankan Day geckos (Genus <i>Cnemaspis</i>) outside the protected area network of Sri Lanka: insights for conservation and management スリランカの保護地域外における昼行性ヤモリ類 (<i>Cnemaspis</i> 属) の自然史と分布 | 2 年 | 458,000 |
| スリランカ | Rupika Subashini RAJAKARUNA | University of Peradeniya | Geographic structure of mitochondrial and nuclear gene polymorphisms in Sri Lankan loggerhead population ミトコンドリア DNA 及び細胞核の多型解析を用いたスリランカのアカウミガメ個体群の地理的構造 | 2 年 | 500,000 |
| ネパール | Smriti GURUNG | Society of Natural Resources Conservation and Development | Macroinvertebrate and diatom assemblages of the Bheri and the Babai rivers in the wake of inter-basin transfer in west Nepal 西ネパールで流域変更分水 (inter-basin transfer) を受けたベーリ川及びババイ川流域でみられる大型無脊椎動物、珪藻類 | 15 か月 | 492,000 |

| 出身国 | 研究者名 | 所属先 | 研究課題 (英文・仮和訳) | 助成期間 | 助成額(円) |
|---------|----------------------|--|--|-------|---------|
| バングラデシュ | Mohammad Firoj JAMAN | University of Dhaka | Monitoring and conservation of amphibians and reptiles population in Tanguar Haor (Wetland), Bangladesh バングラデシュの Tanguar Haor 湿地における両生爬虫類のモニタリング | 23 か月 | 492,000 |
| フィリピン | Jayvee Ablaña SACO | Batangas State University | Biodiversity of seaweeds and associated flora in the Verde Island, Batangas City, Batangas, Philippines フィリピン、バタンガス州バタンガス市ベルデ島における海藻及び関連する植物の多様性 | 1 年 | 499,000 |
| ブータン | Kuenzang DORJI | Ministry of Agriculture and Forests | Ecology and conservation of clouded leopard (<i>Neofelis nebulosa</i> , Griffith, 1821) and small felids community in Taksha Park Range, West of Jigme Singye Wangchuck National Park, Bhutan ブータンのジグミ・シンゲ・ワンチュク国立公園西部、Taksha 公園地域のウンピョウ(<i>Neofelis nebulosa</i>)と小型ネコ科動物の生態と保全 | 13 か月 | 500,000 |
| ベトナム | Toan Quoc PHAN | Duy Tan University | Assessment of species diversity and conservational status of stream-dwelling damselflies (Odonata: Calopterygoidea) in Vietnam ベトナムの河川に生息するイトトンボ (Odonata: Calopterygoidea) の多様性と保全状況の評価 | 13 か月 | 492,000 |
| ベトナム | Nam Hoang CHU | Hanoi National University of Education | Gobiid fish diversity in the mangrove of Xuan Thuy National Park, Northern Vietnam 北部ベトナム、スアントゥイ国立公園のマングローブ林でみられるハゼ類の多様性 | 18 か月 | 496,000 |
| マレーシア | Kishneth PALANIVELOO | University of Malaya | Core of a marine protected area: species diversity and molecular identification of Alcyonacean soft corals in the Port Dickson waters, Straits of Malacca マラッカ海峡のポート・ディクソン海域におけるウミトサカ目の軟体サンゴの種多様性及び分子同定 | 2 年 | 500,000 |

研究助成プログラムでの不正行為等について（概要）

1. 不正行為等のあった助成研究

- 研究者名 Sherab JAMTSHO（2017 年度）
- 所属機関 Department of Forests and Park Services, Ministry of Agriculture and Forests
Royal Government of Bhutan
- 研究課題 Distribution ecology and conservation threats of Chinese pangolin
(*Manis pentadactyla*) in Martshala Geowg under Samdrup Jongkhar District”
- 期間・金額 1 年 332,000 円

2. 不正行為等の概要

① 盗用

提出された最終報告書に他の論文等 2 編から、研究内容・構成、文章、データ、図表、研究結果、添付資料を不適切に流用した箇所が認められる。Abstract, Results & Discussion, Evolution（原文）における盗用が特に多く、文章は約 8 割、図表は約 7 割が盗用である。

② 写真の流用

報告書上の写真の少なくとも約 4 割が本助成と無関係の時期・地域等で撮影されたものである。

③ 助成金の不正使用

(ア) 計画されていたカメラトラップ調査について、助成金の支出の報告はあるが、本文中に記述はなく実施した形跡がみられない。

(イ) インタビュー調査について、財団は支援を認めていないが、助成金の使用が報告されている。

(ウ) インタビュー調査以外の記述は全て①の盗用箇所である。

以上の事実から、Jamtsho 氏は適正に申請研究を実施していないと判断した。

3. 当該研究者及び関係者への対応

- ① Jamtsho 氏、森林公園局長、農林省大臣に対して、不正行為の事実及び本人に対する措置（助成金全額の返還要求、助成者リストからの名前の削除）を文書で通知した。また、申請書上の推薦者と実施許可者にはメールで通知した。
- ② 不正行為等の事実及び対応措置を NEF ホームページ上で公表する（準備中）。

4. 今後の不正行為等防止対策について

- ① 財団の助成等事業に対する不正行為等への方針・規則等を作成する（詳細検討中）。
- ② 不正行為等に対して厳しく対応することを募集要項に明記する。不正行為等と認定した場合の対応は以下のとおり。
 - (ア) 不正を行った研究者本人、実施許可者及び機関長、推薦者らに文書で通知
 - (イ) 研究助成金の一部、または全額の返還を要求
 - (ウ) 助成者リストから当該研究者を削除
 - (エ) 当該研究者の申請資格を制限
 - (オ) 結果の公表
- ③ 申請時、研究倫理を遵守し、公正な研究活動を行うと宣誓することを申請者に求める。
- ④ 申請時、申請者に英語論文 1 篇の任意提出を求める。
- ⑤ 剽窃検知アプリ iThenticate を試験的に導入する。など

平成30年度長尾湿地基金助成実績一覧

1. カンボジア

- 1) 申請責任機関 : Wildfowl and Wetlands Trust (WWT)
- 2) プロジェクト名 : Enhancing the conservation and wise use of Anlung Pring Protected Landscape in Cambodia
- 3) プロジェクト概要 :

Anlung Pring (AP) は絶滅危惧種のオオハゲコウやオオヅルの生息地となっているが、面積が小さく、エビ養殖等の外的要因に対して脆弱である。2016年、カンボジア環境省はラムサールサイトの優先候補地としてAPをProtected Landscapeに指定した。本プロジェクトは、APの重要性に関する理解を深め、ラムサールサイトへの登録を支援するため、APの生態学的特徴や生態系サービス、景観の連続性を総合的に評価する。
- 4) 申請額 : 17,816 米ドル

2. マレーシア

- 1) 申請責任機関 : WWF-Malaysia (Peninsular Malaysia Terrestrial Conservation Programme)
- 2) プロジェクト名 : Conserving peat swamp forest in Setiu Wetlands, Terengganu: Ecological assessment for establishing knowledge and management recommendations
- 3) プロジェクト概要 :

Setiu Wetlands は、生物多様性や生態学的プロセスを維持する役割を果たすと同時に、地域住民に経済的利益をもたらしているが、土地利用の変化による環境の劣化が懸念され、保護の向上や総合的な管理が求められている。本プロジェクトでは、環境変化や影響に関する知見を深め、Setiu Wetlandsの適切な管理を提案するために必要な生態系評価を行う。
- 4) 申請額 : 17,979 米ドル

3. パプアニューギニア

- 1) 申請責任機関 : Lake Kutubu Environment Foundation Inc.
- 2) プロジェクト名 : A awareness on the Lake Kutubu Ramsar Site and Wetlands
- 3) プロジェクト概要 :

Lake Kutubu はその生態学的な重要性から1992年に同国の野生生物管理地域(WMA)に指定され、1998年にWMAがラムサールサイトに登録された。しかし、Lake Kutubuが

WMA でありラムサールサイトであることは地域住民に十分認識されておらず、人口増加により、湿地への不法侵入を引き起こしている。本プロジェクトは、地域住民に湿地の重要性や価値を広める啓発プログラムを実施する。

4) 申請額 : 18,000 米ドル

4. フィリピン

1) 申請責任機関 : Society for the Conservation of Philippine Wetlands, Inc.

2) プロジェクト名 : Active, Clean and Bountiful Rivers: The Wetlands BioBlitz

3) プロジェクト概要 :

本プロジェクトは、国内最大の内陸湿地である Laguna de Bay を流れる 3 本の河で市民や科学者が参加する湿地バイオ・ブリッツ (Wetlands BioBlitz) を実施する。湿地バイオ・ブリッツは、主に若者を対象に湿地の重要性や保全対策に関するセッションや現地調査を実施し、保全行動計画案を提案する。これらの活動を通じて、河川の保全優先度を評価するとともに、市民への普及啓発を推進する。

4) 申請額 : 18,000 米ドル

5. スリランカ

1) 申請責任機関 : Environmental Foundation Ltd.

2) プロジェクト名 : Application of IUCN Red List of Ecosystems of Categories and Criteria to Mangrove ecosystem of Wilpattu Ramsar Site

3) プロジェクト概要 :

Wilpattu Ramsar Site のマングローブ林は漁業や観光等に幅広く利用され、生態系の劣化が危惧されている。本プロジェクトは、IUCN Red List of Ecosystems (IUCN 絶滅のおそれのある生態系) の基準を適用して Wilpattu のマングローブ生態系の評価を試行し、保全の現状を明らかにする。さらに、当該地での評価結果を国内の他のマングローブ生態系の評価指針とし、生態系の有効な保全、影響への取り組みを推進する。

4) 申請額 : 18,000 米ドル